

平成26年度名古屋大学協力会総会・講演会を開催

平成26年度名古屋大学協力会総会・講演会が、7月19日(土)、減災館において開催されました。総会では、名古屋大学協力会会長である松尾副総長による開会あいさつの後、議事進行のもとに、平成25年度事業報告・決算報告及び平成26年度事業計画(案)・予算(案)が承認され、最後に、同会副会長である内山田竹志トヨタ自動車株式会社代表取



講演する竹村教授

締役会長より閉会のあいさつがありました。

講演会では、「迫りくる南海トラフ巨大地震を克服する」をテーマに3件の講演が行われました。最初に、「南海トラフ巨大地震を知る：基礎から最新の科学的知見まで」と題して、鷲谷 威減災連携研究センター教授が、地震の発生メカニズムから最新の研究成果まで、南海トラフ地震に関連する科学的知見を解説しました。次に、「歴史に学ぶ防災論：関東地震と東南海地震」と題し、竹村雅之同センター教授が、元禄地震、濃尾地震、関東大震災の被害、教訓を振り返り、南海トラフ地震への心構えについて講演を行いました。最後に、「減災館を活用し南海トラフ地震の減災対策を進める」と題した講演で、福和同センター長が、東京、大阪と名古屋の地震リスクの違いを解説し、今後、減災館で行う減災研究の取組みを説明しました。

講演会后、今年3月に完成した自家発電・太陽光発電装置、免震構造を備えた減災館の各種地震体感教材及び振動体感システムの見学、建物全体を加振した地震の体感も行われました。

南海トラフ地震に対する時宜を得た講演と減災館見学の関心の高さから、参加者は120名と盛況でした。

名古屋スペースキャンプ2014 NSC-3を開催

名古屋スペースキャンプ2014 NSC-3が、7月29日(火)から8月1日(金)までの4日間開催されました。これは本学と独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)との連携協力協定に基づき、全国から応募した23名の小中学生が参加し、講義や演習、施設見学を通じ、日本の宇宙開発についてさらに理解を深めてもらうことを目的に開催されま



豊田講堂前でのモデルロケット発射実験の様子

した。参加者は名古屋市科学館や三菱重工業株式会社などの中部地区のロケット、宇宙機の研究開発現場の見学、モデルロケットの製作、発射実験などを行い、最前線の天文研究や宇宙開発を体験しました。

本学では、31日(木)の午後から、大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻宇宙物理学研究室(U研)と大学院工学研究科航空宇宙工学専攻の研究室見学を行いました。U研では松本浩典現象解析研究センター准教授と三石郁之理学研究科助教からX線天文学や衛星プロジェクト、観測器について紹介があり、参加者はX線望遠鏡に使われる反射鏡の生産現場を見学しました。工学研究科では大学院生の仙波直樹さん、武藤浩平さん、山田紘平さんの3名から風洞実験や熱制御、次世代ロケット推進器の研究について紹介がありました。夕方からは豊田講堂前広場でモデルロケットの打上げが行われ、参加者は各自作成したロケットの打上げ実験を行いました。最後に、松本准教授から「研究には失敗がつきもの」と参加者に話がありました。

最終日には報告会があり、本学で勉強したいと多くの参加者が話し、宇宙飛行士やロケットエンジンの研究者になりたいといった具体的な夢なども聞かれました。